



タチウオ

主な漁業と漁期

釣り、定置網：周年

生態

●分布・回遊

タチウオは全世界の温帯海域に広く分布し、日本近海では北海道南部以南に分布しています。瀬戸内海や東シナ海では季節により回遊することが知られています。

●成長

海域によって差があるものの、通常1歳で肛門前長20~24cm、2歳で28~30cm、3歳で31~36cm程度に成長します。雌は雄より成長が良く、また春季発生群が秋季発生群より早いとされています。寿命は6、7歳とされ、漁獲物の最大サイズの記録としては紀伊水道では502mm、東シナ海・黄海では520mmがあります。

●成熟・産卵

1歳で40%前後が成熟し、2歳魚では80%以上が成熟します。駿河湾の産卵期は7~11月、盛期は9月で、他海域では紀伊水道、熊野灘は4~11月、東海・黄海産は5~7月、若狭湾西部海域では6~9月となっています。

産卵盛期は春と秋に分かれ、日本海西部海域（若狭湾）では秋生まれが多く、東シナ海および紀伊水道では春生まれが多いとされています。産卵場所は沿岸の砂泥域の50~70mの中・底層とされています。

●食性

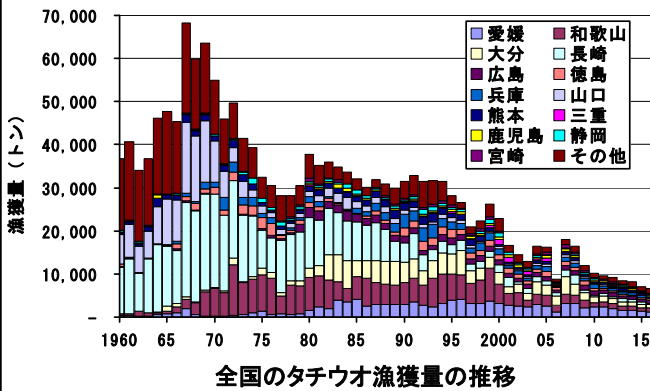
稚魚は動物プランクトンを、未成魚はオキアミ類やアミ類、エビなどを主餌料としています。成魚は魚食性の傾向が強くなり、特にイワシ類、サバ類、アジ類、サイウオ類などを多く捕食します。



タチウオの胃内容物(カタクチイワシとサクラエビ)

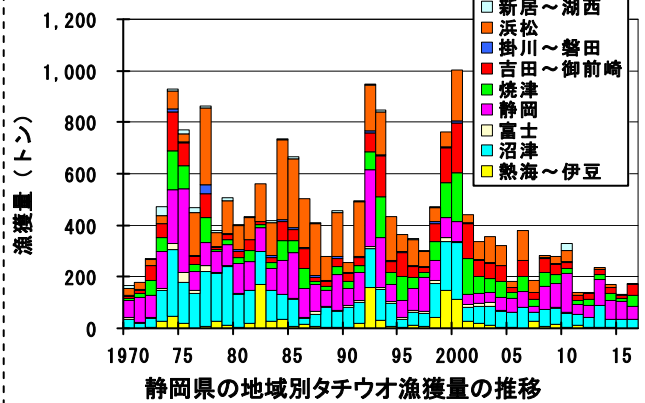
漁業・資源動向

【全国漁獲量】



- かつて、以西底びき網漁業により東シナ海、黄海の広範な海域でタチウオを漁獲しましたが、同漁業の衰退とともに全国のタチウオ漁獲量は急減しました。
- 近年は主に沿岸域での釣りやひき縄等で漁獲されていますが、漁獲量は1990年代以降も減少を続けています。
- なお日本海・東シナ海系群の総漁獲量のうち99.5%以上は周辺国の漁業によるものです。また、わが国EEZ内で操業する韓国のタチウオ延縄漁業は、日本全体の漁獲量に匹敵する量を漁獲しています。

【県内漁業】



- 本県では、釣りと定置網による漁獲量が多く、それぞれ約30%を占め、これに、船曳網、まき網が続いています。近年は、駿河湾内の漁獲割合が増加し県内の9割を占めています。
- 漁獲量の変動が大きく、数年に一度、漁獲量のピークが見られますが、近年では、2000年以後、200~400トン程度に低迷しています。

担当者の一言： 名前の由来は、刀に似ているからとも立って泳ぐからともいわれています。一方、英語ではリボンフィッシュ、バンドフィッシュなどと呼ばれています。

問合せ先

静岡県水産技術研究所資源海洋科 054-627-1817